令和7年（2025年）5月 霧島市新水道ビジョン—経営戦略—（改定版）（案）

お寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

番号	該当場所	ご意見	ご意見に対する市の考え方
01	第4章 基本理念と目指す方向性 4.1 基本理念	「おいしい水」を「安」く、市民に提供することを理念に加えてほしい。本市は「霧島山麓の恵み」の豊富な水資源に恵まれている。水がおいしいこと、安いことは、「住みやすさ」につながり、市の基本政策の柱である移住の促進にも極めて効果的と考える。水道の「水がおいしいこと」「安いこと」を積極的にアピールするビジョンとしてほしい。	ご指摘の基本理念と目指す方向性について、本市水道事業では、国の「新水道ビジョン」（2013年）を参酌し、2017年に「霧島山麓の恵みの水を確かな技術であなただけのものへ」を基本理念とし、「安全でおいしい水の供給」、「災害や事故に強い強靱な水道システムの確立」、「健全な事業運営の持続」の3つの観点から目指す方向性を定め、「霧島市新水道ビジョン」を策定しました。今回の改定においても、これらを維持しています。
02	第4章 基本理念と目指す方向性 4.2 目指す方向性	施策の目指す方向性「安全・強靱・持続」の「安全」に「安心」を加え、「安全。安心」としてほしい。国の新ビジョンに「右へならえ」は分かるが、本市は水資源に恵まれた地域である。「安全」に加え「安さ」や「おいしさ」を担保した「安心」を目指してほしい。	なお、目指す方向性の実現に向けた施策を着実に推進し、災害等への備えを強化するとともに、50年後、100年後も安全でおいしい霧島山麓の恵みの水を安定的に供給する、このために健全な事業運営を継続していくことがお客様（水道利用者）の「安心」に繋がるものと考えています。
03	第6章 事業計画と財政計画 6.1 事業計画（事業への投資計画）	恵まれた水源を生かした多様な水資源の確保を基本とした計画としてほしい。本ビジョン案では国分台明寺配水区関連事業とその他で区分されている。国分台明寺配水区関連はすでに決まっている計画なのでコメントできないが、災害対策や今後の地域づくりの上で、拠点的、集約的な施設づくりを進めるのではなく、現在の55か所の水源を大切に、多様な資源確保を進めてほしい。過度な経済合理性追求の中で、ダウンサイジングが行われることのないように希望する。	ご指摘の「恵まれた水源を生かした多様な水資源の確保」は、災害対策をはじめとする水道事業の安定運営において、極めて重要な視点であると認識しております。今後も、水質・水量の両面で現在の良好な状態を維持できるよう、水源環境の保全に継続して取り組んでまいります。一方で、事業全体の経営効率を高め、可能な限り低廉な水道料金を実現するためには、施設の更新に際し、統廃合やダウンサイジングの検討も重要であると考えており、長期的な視点に立った分析を行ってまいります。

番号	該当場所	ご意見	ご意見に対する市の考え方
04	第5章 実施方策 5.1 施策の目的、施策区分	<p>施策の目的・主旨に、新たに「安くて、おいしい水」を供給します。を加え、施策区分に「利用者の理解と共感」を入れてほしい。水道料金は相対的・政策的なものである。本市は水資源に恵まれている。霧島市の水は「安くて、おいしい」をアピールできる料金設定にしてほしい。相対的には、県内で「安い」グループに帰属し、鹿児島市と同程度が望ましい。今後、他市も価格改定が行われるかもしれないが、市況を見極め慎重に設定してほしい。率先・突出して改定しないでほしい。</p>	<p>ご指摘の水道料金について、昨今の物価高騰により、水道水を供給するための費用(営業費用)が増加しており、さらには、管路や施設の耐震化を早急に進めるため、料金水準の見直しは避けられないと判断しております。</p> <p>ご指摘のとおり、料金改定を行わない場合、収支計画では2030年度に赤字に転じる見込みです。一方、現在実施中の耐震化事業(国分台明寺配水区関連事業)は、2026年度に支出のピークを迎え、2028年度まで多額の支出が続くことから(表6.1-1、p.53)、改定を先送りすればするほど借入金(企業債)の増加を招き、将来的に多額の利息負担が発生する可能性があります。また、料金改定を遅らせるほどに改定率が高くなる傾向にあること(表6.2-1、p.60)からも、2026年度中に水道料金を見直すことが、結果的にお客様(水道利用者)皆様のご負担を最小限に抑える方法であると考えております。</p> <p>水道料金の在り方については、本ビジョンに示された料金水準を基本としつつ、今後、水道利用者や有識者等で組織する外部委員会を設置し、適切な資産維持率や基本料金・従量料金の配分方法などについて、幅広くご意見をいただきながら検討を進めてまいります。</p> <p>あわせて、本市水道事業では、事業全般にわたる経営の効率化を一層推進し、新たな収入確保対策や支出削減対策に取り組んでまいります。</p>
05	第6章 事業計画と財政計画 6.2 財政収支計画	<p>水道料金の改定計画に反対する。令和8年度の水道料金値上げは中止してほしい。水道料金は極めて公共性、利用率の高い公共料金であり、利用者である市民や事業者の理解と共感が必要だ。水道料金の値上げについての情報提供は極めて不十分で、1~2年で理解が広がるとは思えない。翌年には値上げを実施するのは拙速である。市民に十分な情報提供や合意形成がなされるとは思えない。</p> <p>ビジョンに必要な投資額や財源計画は示されていない。事業計画で示されている投資計画は国分台明寺配水区関連事業については表6.1-1で示されているが、それ以外は「どこを、どのように、いくらで」更新するのかわからない。投資額や財源計画があやふやな中で、値上げ計画だけが具体的に示されているのは極めて不愉快だ。</p> <p>収益的収支の範囲では投資額の減価償却費の計上は2030年度からであり、それまでは変わらない。その間、値上げ分はそのまま純利益を膨らませている。この表の範囲では値上げをしなくても少なくとも2030年度までは赤字にはならない。</p> <p>資本的収支については、資金の問題が値上げの理由ということでは分かったが、資料の範囲では正確には理解できなかった。更なる「必要最小限の企業債」の活用も含め再検討すべき。国分台明寺配水区関連事業100億円(表6.1-1)の資金計画を例にとると、年収20億円の企業が約5倍100億円の投資を行い、自己資金30億円の残り70億円を全額借り入れる。これは、家計に例えると年収500万円の家計が2,500万円の家を建てるとき500万円程度の頭金を出して2,000万円程度のローンを組むに当たる。きわめて常識的な範囲だし、まして市の場合は銀行ローンより遥かに長い返済期間(50年)と低利である。今後利息が上がると仮定しても外部資金の活用として無理があるとは思えない。</p> <p>市民、中小事業者は急激な物価高で困窮している。水は生命維持の根幹である。現在が相対的に安いからという理由で値上げを前提とした安易な計画は不愉快であり、反対する。「値上げ」は最終手段とし、市からの財政的支援も含め計画を再検討してください。</p>	<p>水道料金の値上げは極めて不愉快だ。</p> <p>収益的収支の範囲では投資額の減価償却費の計上は2030年度からであり、それまでは変わらない。その間、値上げ分はそのまま純利益を膨らませている。この表の範囲では値上げをしなくても少なくとも2030年度までは赤字にはならない。</p> <p>資本的収支については、資金の問題が値上げの理由ということでは分かったが、資料の範囲では正確には理解できなかった。更なる「必要最小限の企業債」の活用も含め再検討すべき。国分台明寺配水区関連事業100億円(表6.1-1)の資金計画を例にとると、年収20億円の企業が約5倍100億円の投資を行い、自己資金30億円の残り70億円を全額借り入れる。これは、家計に例えると年収500万円の家計が2,500万円の家を建てるとき500万円程度の頭金を出して2,000万円程度のローンを組むに当たる。きわめて常識的な範囲だし、まして市の場合は銀行ローンより遥かに長い返済期間(50年)と低利である。今後利息が上がると仮定しても外部資金の活用として無理があるとは思えない。</p> <p>市民、中小事業者は急激な物価高で困窮している。水は生命維持の根幹である。現在が相対的に安いからという理由で値上げを前提とした安易な計画は不愉快であり、反対する。「値上げ」は最終手段とし、市からの財政的支援も含め計画を再検討してください。</p>
06		<p>水道料金の値上げはやめて下さい。物価高の今市民は1円でも節約して暮らしています。</p>	

番号	該当場所	ご意見	ご意見に対する市の考え方
07		<p>総括原価方式で試算されているが、「水道料金算定要領」に法的な拘束力はない。総括原価方式を採用せず住民の負担が最小となるような試算を需要者に示し、検討しているのかが読み取れない。</p>	<p>ご指摘の「総括原価方式」とは、水道水を供給するために必要な費用（営業費用）に加え、管路や施設の更新に要する費用（資本費用）を含めた総額に見合うよう、水道料金を算定する方法です。</p> <p>この方式は、全国の約7割の事業者で採用されており※、水道事業の持続的な運営のため広く用いられています。</p> <p>また、本市が資金収支方式（必要な資金不足分を水道料金で補う方式）を採用した場合、今回の計画よりも水道料金が高くなる可能性があることから、総括原価方式による料金算定が最も適切であると判断しております。</p> <p>※ 日本水道協会（2024年7月調べ）</p>
08	<p>第6章 事業計画と財政計画 6.2 財政収支計画</p>	<p>今後、水道料金の値上げについては、透明性を高め、市民や事業者といった消費者の意見を反映してほしい。</p> <p>外部委員会による検討が形式的なものにならないよう、積極的なリスクコミュニケーションとして捉え、委員会内容の公開や検討事項の情報提供、意見募集などを行ってほしい。また、各町内会や自治会組織、事業者団体等への説明などを細かく行い、水道料金への理解と共感を進めてほしい。これらの努力は、水道事業全体への市民の信頼を高め、災害対策などの土台となる。</p> <p>私は値上げに絶対反対の立場ではない。示された計画の範囲でも、損益的な赤字計上の見込まれる2030年以降は、国や市からの支援がなければ、現在の料金の維持は難しいかとも思う。ましてや、投資額などは上振れする可能性が高いと思う。その場合でも、市民や事業者の理解と共感が前提と思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、外部委員会の開催にあたっては、水道利用者や有識者等で構成される委員の皆様と本市水道事業との間で、積極的にリスクコミュニケーションを図ることが重要であると認識しております。</p> <p>また、お客様（水道利用者）に対しては、広報紙やウェブサイトなど多様な媒体を通じて、現状や課題について分かりやすく周知し、ご理解を深めていただくことが極めて重要であると考えております。</p> <p>今後は、全国の事例を参考にするとともに、外部委員会でのご意見も踏まえながら、効果的な情報発信の方法について検討を進める旨を記載します。</p>
09		<p>「図6.2-1収益的収支の見通し」では2089年まで黒字収支が見込まれている。直ちに料金の見直しが必要だとする根拠が示されていない。</p>	<p>ご指摘の「収益的収支の見通し」などの各表は、2026年度および2030年度に水道料金を改定した場合の試算結果を示したものです。この点がより分かりやすく伝わるよう修正を行います。</p> <p>なお、先述のとおり、水道料金の見直しを行わない場合には、2030年度に赤字に転じる見込みです。</p>

番号	該当場所	ご意見	ご意見に対する市の考え方
10	第6章 事業計画と財政計画 6.2 財政収支計画	計画的な設備投資、国庫補助事業の活用などで整備に必要な負担を平準化することで、現段階での料金の見直しは回避できる可能性が残っていると感じる。また、投資(整備)量を調整し支出を抑えられないか、他市での取り組みなどを参考に、もっと工夫をこらせると思う。	ご指摘の国庫補助事業の活用については、現時点において適用可能な制度はありませんが、今後、補助要件の緩和に向けた要望も含め、積極的に検討していく旨を記載します。また、投資(整備)量の調整については、投資規模と財政状況とのバランスを考慮し、建設改良費を約13億円に設定して平準化を図ること(表6.1-6「検討結果の概要」、p.56)を、本市の事業計画の方針としております。
11	第6章 事業計画と財政計画 6.2 財政収支計画	国に支援を求めるべき。新ビジョン自身が国の施策に沿ったものである。耐震化などの費用を全て住民負担に丸投げするような施策には反対すべきで、相応な負担を国に求めるべき。「国への相応の負担や支援を求めます。」を計画に明記すべきである。	
12	全体	パブリックコメントという横文字は不慣れであるが、内容には共感するものがある。今から六十年ほど前に、職場の社長から、水の一滴一滴が金銭に等しいと強く教えられた経験があり、水の大切さを実感した。この基本があったならば、水は大いにその役目を果たしていこうと思う。いついつまでも霧島の湧水・地下水が絶えることのないように思っている。	ご指摘のとおり、自然の恵みである水を、知識と経験に支えられた確かな技術により、50年後、100年後の未来にわたって安全に供給し続けることは、本市水道事業にとって極めて重要な使命であると考えております。その実現に向け、今回改定した「霧島市新水道ビジョン」に掲げる各種施策を、今後も積極的に推進してまいります。